

審査の結果の要旨

論文提出者氏名 張 旭紅

本論文は、中国近代大学の空間的特徴を動的に理解することを目的とし、キャンパスのオープンスペースに着目し、その歴史的な形成・変容過程の分析を行ったものである。合わせて、中国のキャンパスの固有性を理解するため、中国近代大学の形成に深い関係をもっていたアメリカの大学キャンパスと比較検討を行っている。

論文は、全6章と最後の「まとめ」から構成されている。

まず第1章では、本研究の目的と研究対象、研究方法の概要について述べている。大学空間をオープンスペースから研究することの意義、その空間的な特徴を通時的、動的に理解することの意味が明らかにされている。また、研究対象として、中国、アメリカとも、1930年代中期までに形成された大学で代表的なものが選択されたことが説明される。

第2章、3章では、中国とアメリカの大学制度、組織などの変化、それぞれの空間的変容過程を概観し、それらの相互関係を論じている。

第2章では、アメリカの大学がドイツ大学を範としながら、柔軟なアメリカモデルに達するに至ったこと、空間的には、集落的様相から大規模で複雑な都市的様相に変貌し、計画的で統一的な空間形成を目指し、さらに今日、その伝統を再興しつつあることなどを論ずる。

第3章では、中国の近代大学は19世紀末以降発生、展開したこと、それには大学のアメリカモデルやソ連モデルなどが影響してきたことなどを確認し、空間的には、20世紀初頭以降、アメリカのマスタープラン作り、さらに戦後はソ連式建築に影響され、今日の既存環境との調和を重視する状況に至る過程を論じている。

第4章では、オープンスペースの分析方法を詳述した上で、中国近代大学10例のキャンパスの変容過程について分析を行っている。

分析は1950年の前後の二段階、あるいは三段階に分け、また、建築的なスケールからキャンパス全体のスケールまで三レベルに分け、それぞれのキャンパスの空間編成を分析している。結果として中国大学のキャンパスでは全体として、

- 1) ユニットレベルでは、異なる特性をもつオープンスペースの基本単位の形成、田園的、庭園的編成から都市的編成への変容が見られること、
- 2) 中間レベルでは、中心性と軸性の並存、田園的、都市的編成の形成、

田園的編成から都市的編成への変容が見られること、

3) 全体レベルでは、中心から周縁への空間の展開、軸による統合、編成領域の特性の分化、田園的編成から都市的編成への変容が見られること、などが明らかにされる。

第5章では、対象として選択したアメリカの大学のキャンパスについて中国大学と同様な分析を行い、その結果、空間編成は中国と共通する特徴が多であるものの、アメリカ固有の特徴として、中庭・広場型のオープンスペースを中心として空間編成が展開すること、都市性が現れる場合でも、中心には田園的な空間編成が存在することなどが論じられる。

第6章では、上記4,5章の分析から、中国とアメリカのキャンパスの特徴を比較し、四つの側面において動的な観点から見た中国近代大学のキャンパスの特徴を示す。

1) オープンスペースのスケールにおいては、中・米のキャンパスは類似しているものの、キャンパス全体のスケールはアメリカが著しく広大であること、

2) アメリカキャンパスでは単一の中心が見られるのに対し、中国では、複数の中心が並置されること、

3) 軸性に関しては、中国大学には分散した複数の軸が見られること、軸性が部分レベルでは強く、全体レベルでは弱いこと、軸による空間編成の展開には一方向性が強いことなど、さらに

4) 編成領域の特性に関して、田園的特性で統一されたアメリカ大学に対し、中国大学は相異なる三種類の特性をもつ領域が形成されてゆくことなどが示される。

最後の「まとめ」では、中国近代大学キャンパスの変容に見られる特異性として、第一に、軸性を用い統合的に展開する田園的空間編成に庭園的空間編成が導入されること、第二に、新たに都市的特性の空間編成が付加されること、の二点が論じられる。結論として、アメリカの「同質的オープンスペースの一貫した形成」に対し、中国近代大学の空間形成には、「異質的オープンスペースの並存と複合」という特徴があること、その背景として中国の伝統的な空間が影響していることなどが結論付けられる。

以上のように、本論文は中国近代大学の空間の形成と変容に関し、その動的な特徴を明らかにする実証的な研究で、大学空間のあり方に関する広い知見を提供するという点で興味深いだけでなく、現在、大きく変貌しつつある中国の大学キャンパスの将来計画にも有効な指針を与えるという点で、高く評価されるものである。

よって本論文は博士(工学)の学位請求論文として合格と認められる。